

東海北陸道 白鳥IC～飛騨清見IC(4車線化)事業概要

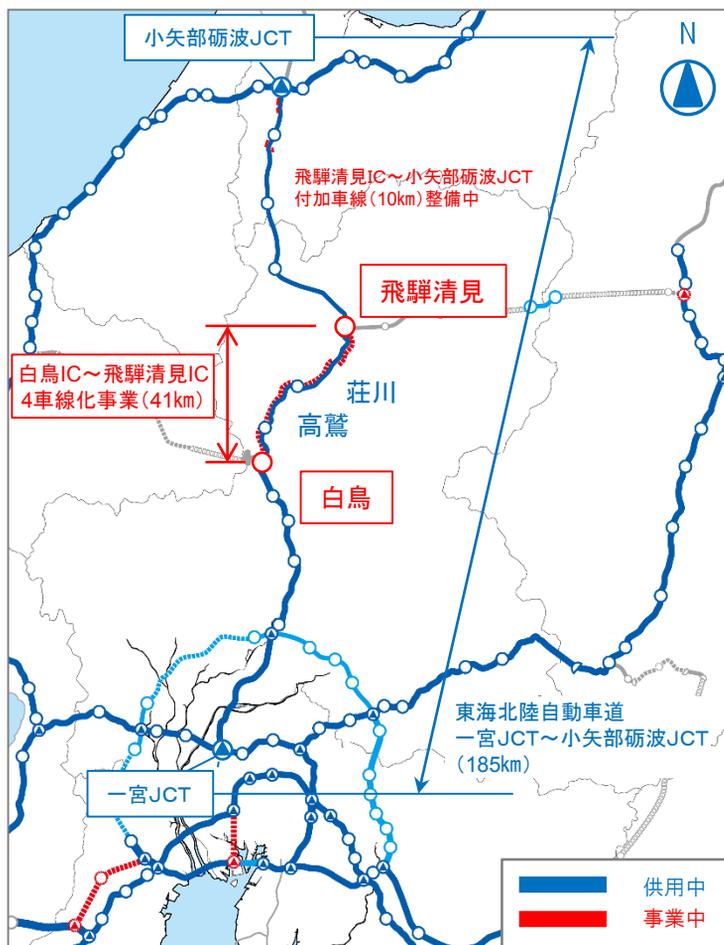
東海北陸道は、名神高速道路と分岐する一宮JCTを起点とし、岐阜県の中央部を長良川沿いに北上し、奥美濃、飛騨地域を経て小矢部砺波JCTで北陸自動車道に接続する延長185kmの高速自動車国道です。

名神高速道路と北陸自動車道を相互に連絡し、中部圏をはじめ、沿線地域の産業、経済、文化、観光などの発展および振興に資する道路です。

2008年度に全線(185km)が開通。暫定2車線区間の4車線化も順次進められ、2009年度までに、一宮JCT～白鳥IC間(76km)が4車線で運用されました。

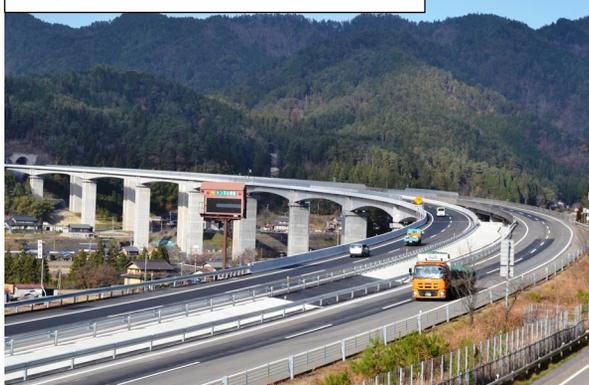
白鳥IC(郡上市白鳥町)～飛騨清見IC(高山市清見町)間(41km)の4車線化事業は、2012年度に事業化され、2018年11月30日に白鳥IC～高鷲IC間(8km)、2018年12月8日にひるがの高原SA～飛騨清見IC間(26km)の4車線運用を開始しています。

また、飛騨清見IC～小矢部砺波JCT間(68km)の暫定2車線区間においては、現在、付加車線(10km)の整備を進めています。



【4車線化の実施状況】

白鳥IC～高鷲IC(2018年11月30日4車線化)



ひるがの高原SA～飛騨清見IC(2018年12月8日4車線化)

